

江良歯科新聞

990-0075
山形市落合町
字二口203-1
編集：
江良歯科医院
江良謙次

口腔粘膜の病気いろいろ

口内炎といっても色々な疾患がある

アフタ性口内炎

むし歯や歯肉の痛みは耐えがたいものですが、頬粘膜や舌などにできる口内炎もいやなものです。今回は口内炎を取り上げました。

ほとんどの方は口内炎になったことがありません。歯茎や舌の縁や頬にできると食事の際に、しょっぱいものやすっぱいものがしみて痛くて大変な思いをされたことがあるのではないのでしょうか。よく見ると形が丸くて表面が白くぼく少し凹んで



お口の中に、アフタや粘膜の一部に白斑や潰瘍もないのに、びりびりした痺れた感覚が持続して出現する場合があります。そんな感じが出現する場所は、舌であったり口蓋や唇周囲で

あつたりします。耳鼻科や内科などを受診し、そのことを訴えても信じてくれない、どこにも異常はないと言われるもの

口腔粘膜の知覚異常

症状の方は、**口腔灼熱症候群**または**舌痛症**と言われる疾患かもしれません。本院では治療に精神安定剤、ビタミン剤を併用した治療を行っております。どうぞご相談下さい。

この病気は難治性といわれるお口の粘膜にできるものです。白色レース状でわずかに隆起していて、時に丘状に膨れた慢

口腔扁平苔癬

なかなか治らない口内炎の代表

療としてステロイド軟膏の塗布やレーザー照射も効果的です。

歯みがきするたびに出血する

食事の際にしみる

これも否定的です。最新の情報では扁平苔癬は自己免疫疾患（関節リウマチや全身性エリテマトーデスSLE等）であると考えられています。これまでステロイド軟膏や免疫抑制剤の

より女性に多く、30歳代から80歳代に起こり平均50歳後半が多い傾向にあるようです。この病気と関連性がある（病気の原因）といわれる全身性基礎疾患にはC型肝炎、高血圧症、糖尿病であることがありま

含まれた軟膏の治療が行われてきました。なかなか根治できておりません。本年から本医院ではビタミン剤と酪酸菌を使った治療を開始しました。なおこの治療は健康保険の適応にはなっておりません。先生にご相談下さい。

供から大人までできます。普通はこれでも口内炎と呼んでいまず。ではどうしてできるのでしょうか？

口腔内の乾燥やヒリヒリ感、味覚障害などの場合にはカンジダ性口内炎が考えられます。これまで病院に入院し抗生物質の点滴を受けていた

がなくなつたという症状がそうです。頬粘膜や口蓋の奥のほうの軟口蓋に白い苔状または赤い帯のように見えます。その白斑は手で擦って取れますか？もしも取れてきたらそれはきつ

とカンジダというカビの一種かもしれませんが。また皮膚の病気で長期に免疫抑制剤という薬を飲んでいたりして舌が黒くなつたり（黒毛舌）イソジンやアルコール系のうがい薬を1日4回以上使用されている方はカンジダ菌が広がっているかもしれません。